科目名	食と文化	科目分類	■基礎教育科目　□専門教育科目 □卒業必修 □栄養士必修 ■選択
英文表記	Food　Culture	開講年次	□１年 ■２年
ナンバリング	BE210E	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
ふりがな	かまだ　ゆきお	授業形態・修得単位	講義・２単位
担当教員名	鎌田　幸男	実施方法	■対面のみ　□遠隔のみ □対面・遠隔併用
		実務家教員担当科目	
授業のテーマ	・日本の食生活や食文化（料理様式）の歴史的変遷を知る。 ・日本の風土に根ざした食文化への先人の知恵としきたり（生活習慣・暮らしの習わし）を探る。 ・食べることは文化であることを考える。		
授業概要	人間にとって食べることは、生きるための不可欠な要因であり、生命の根源ともいえるものである。世界の民族は、それぞれの風土、自然的・地理的な環境の中で独自の食生活を育んできた。日本の食生活は、恵まれた海と山地の食材を通じて造り上げられてきた。具体的には新鮮で栄養価があり、衛生的で安心して美味しい独自の食文化を築いてきた。その過程で中国の料理様式が日本へ伝播され,様々な影響を受けることになる。 ここでは日本の料理様式、つまり食文化の歴史を取り上げる。また高度経済成長期後の食文化は、どのように変遷したかを考える。そして日本人の生活の知恵としきたりは、各行事食や郷土食にどのように影響したか。21 世紀の食文化や食のライフスタイル、そして食育教育の推進にも触れる。		
到達目標	この授業を履修することで食生活や食文化への幅広い知識や教養が身につく。 1　東アジア稲作地帯の世界との関わりで、日本の食文化はどのようにして形成されたかを知る。 2　日本の風土（環境）と食と文化との関わりを知る。 3　日本の伝統的な行事食を考える。正月料理を事例にして、和食がユネスコの無形文化遺産に登録されたが、それはどのような理由からか、食の価値観も含めて考える。 4　日本人の食生活の知恵やしきたりを通じて各行事食、郷土食を考える。 5　21 世紀の食文化や食のライフスタイルの課題について考える。		
授業時間外の学習	1　新聞に食に関する記事が掲載されている。行事食や地域の特色ある食材（郷土食）が使われている。 2　記事を切り抜いてスクラップブックにすると食生活や食文化の好資料になる。また今後の生活にも役立つ資料になると思われる。		
履修条件	1　食べ物、食材に興味、関心を持ってほしい。 2　スクラップブックの作成は、大いに授業の手助けになる。 3　講義時に必要な資料は配布する。ただし無断欠席の学生には配布しない。		

授業計画	
第１回	テーマ：授業のオリエンテーション。講義の概要について説明する－食べることは文化であるか。
第２回	テーマ：世界の米文化から―東南アジアの米文化を事例として、日本の稲作文化を考える。
第３回	テーマ：中国や朝鮮半島の食文化とその影響、日本の食文化の特色について考える。
第４回	テーマ：日本の食生活（料理様式）の変遷について－古代の食文化について（1）
第５回	テーマ：日本の食生活（料理様式）の変遷について－中世から近世の食文化について（2）
第６回	テーマ：日本の食生活（料理様式）の変遷について－近代以降の食文化について（3）
第７回	テーマ：日本の伝統的な行事食について－お祝い、おせち、七草粥など各行事食の意義を考える（1）
第８回	テーマ：秋田の伝統的な料理―郷土料理（きりたんぽ，だまこ餅など）について考える（2）
第９回	テーマ：和食―正月の料理を事例にして、ユネスコの無形文化遺産に登録される。世界文化遺産と無形文化遺産について、きちんと区別して知る。
第 10 回	テーマ：食のライフスタイル―新しい食の価値観について考える。　　（小テスト実施）
第 11 回	テーマ：家庭の調理は、これからどう変わるか。
第 12 回	テーマ：食の二極化が進むというが、それは具体的にどのようなことなのか。

第13回	テーマ：食の産業化と情報化について考える。
第14回	テーマ：21世紀の調理文化はどのようになるか。
第15回	テーマ：食育教育の重要性が叫ばれているが、具体的にどのようなことか考える。
第16回	定期試験

テキスト	半期科目なのでテキストは使用しない。
参考文献・資料	『食文化入門』2012　東京堂出版【岡田哲】　『食事の文明論」』1991　中公新書（石毛直道） この他の文献は講義の時に随時紹介する。
成績評価の方法	①定期試験（60%）、②小テスト（20%），③レポート（10%），④授業の感想を簡単に書く（10%） ※①②③④の総合評価とする。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
オフィスアワー	金曜日（10：40～12：00）これ以外の場合は事前に連絡があると日程調整する。
受講生に望むこと・受講のルール	・授業時には必ずノートをとる。またメモを取るようにする。手を動かすことが頭に残る。 ・学習したことをその日のうちに「まとめる、整理をする」時間を持ってほしい。これを習慣化してほしい。それは知識になり、次の時間に繋がる。